



2017
Vol.7
Aug.



英国研修記

研修期間: 2017年6月7日～18日

松平千佳

NPO法人ホスピタル・プレイ協会 理事長
静岡県立大学短期大学部 准教授

6月7日から18日まで、英国とリニアアにおいて研修をしてきましたので、報告させていただきます。

英国では、Tadworthにあります、子どものリハビリを専門とする中間施設と、Poole 病院、そしてSouthamptonこども病院において研修をさせていただきました。リニアアでは、第27回ICCP(International Council of Children's Play)の国際大会においてポスター発表をおこないました。

The Children's Trustは、もともとはグレートオーモンドストリート病院の附属中間施設だったようです。脳に損傷のある子どもたちが退院後入所し、リハビリなどのトレーニングを受け、在宅に向かうための準備をおこなう施設となっています。人工呼吸器をつけているお子さんや、脳腫瘍の摘出をしたお子さん、また重度の脳性まひや、交通事故など、とにかく重複した障害を負った子どもたちが入所あるいは通所しているところでした。広く緑あふれる敷地に、最新の設備を整えたり、リハビリテーションセンターと、居住棟が整っていました。また学校も併設され、大学入学に向けての勉強に励んでいるお子さんもおられました。ここで最も印象に残ったのが、子どものリハビリを担当するOTやPTの話でした。彼女たちは「24時間リハビリ」という考えのもと、リハ室の中だけリハビリをするのではなく、生活に密着した目的をたて、子どものQOLを高めようという考えを持っていました。例えば、脊髄を損傷し、そのうえ足を切断した13歳の子どもは「バクテンができるようになること」でした。子どもの願いに沿って24時間の生活の中におけるリハビリを考え、提案すると話していました。15歳のお子さんは、気切をしているのですが、「スパゲッティをクルクルまいて食べる」を目標にしています。1年たって、彼女は細かく刻んだスパゲッティを食べられるまでになりましたが、総合評価としては「1年前は、みんなと同じになりたい、元に戻りたいと思っていたけど、別にそんなことにこだわらなくていいと思うようになった。ここに来て、考えが変わったし、自分は自分でいって思えるようになった」と言ったことが印象的でした。リハの人たちは、1年前に『そんなの無理だよ』と言って変更させていたら、きっと今のような満足感はないだろうと話していました。

エリザベス・リディアという、もともとは視覚に障害を持つ子どもたちの教育にかかわっていた先生を招いて、TaSSeLsという新しいコミュニケーション方法を学びました。実際、TaSSeLsだけでなく、Poole病院では、絵カードと感覚を結びつけたコミュニケーション方法など、4種類ぐらいのコミュニケーション方法を観察することが出来ました。またHPSが関わる発達検査も勉強になりました。事前訪問で子どもに検査をするプレイルームと玩具に慣れてもらい、検査に対する親のストレスも軽減する。HPSは子どもの遊びを観察し、基本情報を集め、事前に検査に入る人たちと、それぞれが子どものどこを重点的に確認するのか打ち合わせる。2週間後に本検査をし、4種の専門家(医者だけではなく)が合議で発達に遅れがあるか否かを見極めるという方法は、当たり前と言え当たり前なのですが、まだまだ日本では実施されていません。いつになったら、このような丁寧で平等な検査方法が導入されるのかなど、思っていました。2月に、レイチェルさんを招へいしていますので、楽しみにしてください。



ICCPは、2回目の発表です。今回はポスターでの発表を選択しました。その方が、いろいろな国の人とゆっくり話ができると思ったからです。同じヨーロッパでも、西と東、そして北では本当に違う医療システムと発展段階にあることが分かります。リニアアは子どもの病院はあるものの、難しいものだとEU内の違う国で治療を受けることが多いようです。まだまだ、疾病や障害に対する閉ざされた感覚が色濃く残っているのではないかと感じました。

Southampton病院では、元気のいいHPSのチームに出会いました。なじんだ感覚でとても実習がしやすかったです。摂食障害の16歳の子どもへの援助を、HPSとユースワーカーとしての役割を持っているベテランHPSが考えていました。摂食障害だけでなく、お母さんの薬物の影響を受けていること、里親がもうこれ以上一緒に生活することが難しいと引き取りを断ってきたことなど、包括的に考えないといけないケースでした。「本当に子どもの病気が多様化しているし、子どものいる環境も多様化している。他職種チームが機能することはMUSTだ」と言っていました。

※余談になりますが、Tadworthはノーマ先生の自宅の近くなので、泊めてもらいました。実は、ノーマ先生が勤めるスタンモアカレッジが、今年度から再びHPSの養成コースを開講することになりました！ノーマがまた主任です。「当分頑張るよ」と話していました。



Poole病院では、久しぶりにキャロラインに会いました。とても元気そうでした。Pooleにはちょうど八木君も来ており、研修先は別々だったのですが、一緒にご飯を食べたりすることが出来ました。キャロラインは、言語によるコミュニケーション能力に制限のある子どもとの新しいコミュニケーション方法をよく勉強していました。

活動報告

活動報告の詳細は、ブログに掲載しています。ぜひ、チェックして下さいね。 <http://blog.goo.ne.jp/npo-hps-japan>

- 7月1日「ICT救助隊コミュニケーション支援講座」を開催しました。
- 7月12日、19日、26日、一般の方を対象にした「遊育サポーター養成講座(全3回)」を開催しました。
- 7月15日、静岡県立大学大学院社会人専門講座「HPSから学ぶセラピューティックな理論と実践」を開催しました。
- 7月14日、文科省の「情報ひろばWS」(東京)に参加しました。



HPS養成講座 第12クール(2016年10月～2017年3月) 12名が修了し、全国HPSのべ161名に!

活動報告



第12期修了生 一言コメント

●石塚 有美(いしづか ゆみ)さん

【所属】東京都立小児総合医療センター 子ども家族支援部門 育成科

児童思春期精神科で思春期の人たちと活動しています。思春期という難しい年齢と特性もあり、いろいろな困難を抱えていることが分かります。また、一人一人と関わる中で、他職種との連携の大切さを実感しています。HPSとしての視点を持ってどのように支援していくか、養成講座の学びを思い浮かべながら、日々悩み、考えています。

●坂本 直行(いりもと なおゆき)さん

【所属】社会福祉法人 三篠会 重症児・者福祉医療施設 原現在、重度の障害を持った大人から子どもが生活をしている施設で働いています。どの子どもも遊びを日頃からできるよう、計画を立て一緒に遊びを楽しんでいます。しかしながら、大人数なので、遊びが毎日出来てなく、週一ペースになってるので、もっと充実できるようにすることが今の課題になっています。

●奥原 雄太(おくはら ゆうた)さん

【所属】静岡県立総合病院

HPSの資格を取得して3ヶ月が経ちました。総合病院の一般病棟で小児科、耳鼻科の子供と関わっています。看護師とHPSの両立という難しさを感じながら日々働いています。

●加藤 千佳(かとう ちか)さん

【所属】東京都立小児総合医療センター 子ども家族支援部門 育成科

病院という環境で働き始めて3ヶ月経ちました。循環器の病棟で入院している子どもたちと関わり持っています。病院・病棟のことが少しずつわかり、HPSとしてこれから取り組みたい課題が見えてきたところです。

●瀬戸 壽瑛(せと ひさえ)さん 旧姓(新保)

【所属】重症児者福祉医療施設 ソレイユ川崎

私の職場では、子どもから大人まで幅広い年齢の利用者が暮らしています。どんな利用者も遊びの場面ではひときわ目を輝かせていて、遊びの持つ力に年齢は関係ないのだと実感する日々です。養成講座の受講以降、遊びの力をより身近に感じながら利用者への支援を考えることができ、やりがいを感じています。

●鈴木 千晴(すずき ちはる)さん

【所属】藤枝市立総合病院 小児病棟

4月から総合病院の小児病棟で働いています。様々な病気や怪我・状態の子ども達と、その家族と関わっています。勤務していく中では、多職種連携が必要となる場面が多くあります。日々のコミュニケーションの重要性を、強く感じています。

●西垣 功(にしがき いさお)さん

【所属】堺市立重症心身障害者(児)支援センター

普段は通所(18歳以上)の利用者と関わり、療育や日中支援を行っています。今後はHPSとして入所の子どもやショートステイに来る子どもへの遊びや生活が充実できるよう取り組んでいきたいです。

●野中 七彩(のなか ななせ)さん

【所属】(重心)児童発達支援等放課後デイサービス「マーガレット」(大阪)

医療ケアを必要とする未就学の子どもから高校生までが通うデイサービスで働いています。HPSの勉強を経てどの子どもでも感情や伝えたい事を出せることができるように、気持ちの部分が一番に考えるようになりました。スタッフの考えも少しずつ変化が見られ、これから、ますます子どもたちの可能性を皆で広げていけるよう日々頑張っていきたいと思います。

●福地 舞(ふくち まい)さん

【所属】なし

現在定職にはついていませんが、先輩HPSの方と一緒に、喘息患児に向けた冊子作りの手伝いをさせて頂いています。ツール作りや保育園健診時での活動など、今後もHPSとしての取り組みをしていきたいと考えています。

●松本 智子(まつもと さとこ)さん

【所属】聖隷浜松病院 小児科病棟

念願だったHPSを取得し小児科病棟だけでなく、他病棟にも介入するようになりました。日々悩みながら、不安を抱きながらですが自分の活動が子どもや家族の為になるように頑張っています。

●矢島 美季(やじま みき)さん

【所属】群馬県立小児医療センター

HPSとしての経験はまだまだですが、授業で学んだ“できない”を“できる”に変える工夫や、できるように考える事が自分の中で当たり前になってきました。HPSの存在を広める事や他部署との関わりも視野に入れる事で、活動の場が広がっていくことも実感しています。チームの中で自分が出来る事をコツコツ取り組んでいきたいと思っています。

●良知 優子(りょうち ゆうこ)さん

【所属】聖隷浜松病院 GCU病棟

職場に戻り、今の自分に出来ることを考え今年の活動目標を立てました。他のHPSにアドバイスをもらい協働しながら、出来ることから少しずつですが取り組んでいます。

全国で活躍するHPS ①

全国各地で活躍するHPSを紹介するコーナーです。今回は、HPS養成講座11期生の阿部さんに、日頃の活動を紹介してもらいます！



♪HPS 阿部友香さん ♪所属 滋賀県立小児保健医療センター

みなさん、こんにちは。

HPS11期生の阿部友香です。

私は、昔から小さい子どもが好きで、子どもと関わる仕事に就く事が夢でした。ある日、弟の友人のお見舞いで子ども病院に行く機会があり、そこで出逢った笑顔の看護師さんたちが忘れられず、「子ども病院の看護師になりたい！」と強く思った日の事は今でも覚えています。幼い頃の夢が叶い、現在は看護師になるきっかけとなった、滋賀県立小児保健医療センターに就職し、今年で11年目となります。

たくさん子どもたちと触れ合う中で、病院という環境の中でも、子どもらしく過ごして欲しい、治療も大事だけど、子どもたちが心から遊びに夢中になれる環境を作りたい、作るべきだ、という想いが膨らみ、HPSの活動を知りました。

HPSの資格取得後、外来・手術室への配属となり、現在は手術を受ける子どもたちの術前訪問をメインに活動をしています。当センターでは、手術を受ける子どもたちのほとんどが手術前日の入院となっています。限られた時間の中で出来るだけ子どもたちが理解し、納得した状態で手術室へ向うことが出来るよう工夫しています。手術室探検や、前日にキワニストールに子ども自身がギブスを実際に巻いて、感触や固まっていく過程、術後の自分のイメージが出来るような関わりは、子どもたちとの関係づくりにも効果的です。



また、股関節手術を受ける子どもたちは、低年齢での手術となる事が多く、ご家族が子どもへの事前の説明に迷われるケースも少なくありません。ご家族の不安も軽減出来るよう、入院日にゆっくりと関わる時間を設け、子ども自身が理解できる方法でのプレパレーションを心掛けています。術後は、約1ヶ月程度のギブス固定が必要となりますが、術前にイメージ化する事で、術後の受け入れがスムーズになっていると実感しています。

また、今年度より院内での「HPSによる個別あそび支援」という活動をはじめました。この活動は、長期入院によりストレス症状の強い子ども、個別隔離が必要な長期的治療や回復期にある子ども、在宅移行目的による入院中の子どもとそのきょうだい、を対象とした活動となっています。

個別のあそび支援の目的は、①医療行為のない安心できる環境下でのあそびの提供、②発達段階に合わせた個別支援、③ストレスの発散・緩和、④生活リズムの調整です。また今後は、在宅移行目的の長期入院中の子どもときょうだいへの支援が必要だと思っています。医療ケアが必要な子どもときょうだいへの心の支援や、きょうだい関係を築くサポートが出来るような機会を増やしていきたいです。限られた時間の中で、効果的に活動出来るよう、他部門との調整を行いながら、子どもたちのわくわくした気持ちやあそびで満たされる心を大切に、子どもたちの笑顔のために、活動を続けていきたいと思っています！



活動予定 (2017. 8月～12月)

開催日	内容	場所
9/3(日)	SMA家族の会 ホスピタル・プレイ遊育支援ワークショップ	鹿児島県始良市文化会館
9/23(土)	テリー・コットマン先生 講演(一般講座)10:00～16:00	静岡県立大学短期大学部
9/24(日)	テリー・コットマン先生 講演(HPS向け)9:30～16:30	静岡県立大学短期大学部
11/12(日)	「ホスピタル・プレイ入門講座 in 福井」	福井県立大学(永平寺キャンパス)

ブロック活動

静岡、名古屋、関東、関西ブロックの活動を紹介します。
活動報告は、ブログをチェック！ <http://blog.goo.ne.jp/npo-hps-japan>

名古屋 ブロック

昨年度、名古屋ブロックで初めて遊育会を開催しました!!名古屋ブロックは在籍人数が19名と少ないですが他のブロックの方々のご協力もあり、無事に終わることができました。



また今後、機会があれば名古屋ブロックで遊育会を開催できればと思っています。

定期のブロックの活動として交流会を2ヶ月に1回行っています。研修会の内容の共有や在宅支援の報告が主な内容で、今年度はケース検討も取り入れたいと考えています!

静岡 ブロック

静岡ブロックでは、3か月に1度くらいのペースで、ブロック会を行っています。7月23日(日)に行われたブロック会では、メンバー27名のうち、16名の参加がありました。今回の内容は、グリーフカードの取り組みや子どもたちが作ったすごろくについての紹介をしてもらいました。また、病院塗り絵の取り組みをしているHPSからは、実際使っている塗り絵を用意してもらいました。HPSそれぞれが入院した子どもの気持ちになり、塗り絵を作ってみて、最後にお互いの塗り絵を見せ合いました。個々に描く顔の表情の違いや入院時と退院時の表情の違いがよく表れていました。描く、塗るとい遊びの中で、気持ちの表出ができることを実感できました。

次回のブロック会では、秋に事例検討会を予定しています。今年度はブロックメンバー同士が、風通し良く情報交換ができるようブロック独自の名簿を作成しました。ブロックの仲間で相談しあいながら、日々の実践を積み上げていけたらいいなと考えています。



関東 ブロック

月1回ペースで ブロック会を開催

主な活動

- 5月 アナログゲーム療育 幼児編
- 6月 アナログゲーム療育 学童編
- 9月 事例報告会
- 10月 事例集に向けて準備
- 12月 シンポジウムに向けて準備
- 1月 シンポジウムへ参加
- 3月 おもちゃケア



関西 ブロック

関西ブロックです。関西は近畿2府4県だけではなく、中国、四国、九州、沖縄と西日本で活躍するHPSが集まっています。いつでも楽しく明るく笑いを込めてをモットーに、かつ真剣にHPS活動に取り組んでいます。1回/2月はブロック会を通して近況を報告しあったり、相談しあったり、今後のワークショップのネタを考えたりしています。

近々の予定としては8/27にあそびかたフェスタというイベントに遊びのブース出します。また9/3のSMA遊育支援ワークショップにも参加します。こういったブロックだけの各動ではなく、HPS全体の活動を通して交流を図り新たな知識やアイデアを増やし、日々活動する現場に還元できればと思っています。



新スタッフあいさつ 木村尚子(きむら しょうこ) NPO法人ホスピタル・プレイ協会事務局

5月から、NPOのお手伝いをさせて頂いています。熊本県出身の木村です。HPSとの出会いは、昨年12月、熊本で開催された「ホスピタル・プレイ入門講座」に参加したのが、きっかけでした。うちの子(5歳)は、SGA性低身長で、毎晩在宅注射が必要でしたが、嫌がって暴れる、泣くなど、手のつけられない状況でした。わらにもすがる思いで参加した講座で、松平先生と出会い、3回のプレイセラピーに加え、わたし(母親)のケアまでして頂きました。子どもは心の元気を取り戻し、私自身も、ありのままの子どもを喜べるようになりました。HPSの支援を受けた親として、HPSの素晴らしさ・必要性を、社会に発信していけたらと思っています。よろしくお願ひします。

NPO法人日本ホスピタル・プレイ協会

～すべての子どもの遊びと支援を考える会～
〒453-0041 名古屋市中村区本陣通5-6-1
地域資源長屋なかむら1階
TEL&FAX 054(202)2652
Mail info@hps-japan.net
事務局 南 伸予、木村 尚子

HPS Japan 静岡県立大学短期大学部

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2-2-1
TEL&FAX 054(202)2652
Mail hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp
事務局 徳田幸、中野美玲